

# 保育雑誌に掲載される年間指導計画の分析 —改訂された幼稚園教育要領等に示された「資質・能力」 及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から—

田中 敏明\*<sup>1</sup>・屏賀 一男\*<sup>1</sup>・井手 裕子\*<sup>1</sup>・高木 富士男\*<sup>2</sup>

\*<sup>1</sup>九州女子短期大学子ども健康学科 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

\*<sup>2</sup>西日本短期大学健康スポーツコミュニケーション学科

福岡市中央区福浜1-3-1 (〒810-0066)

(2018年5月18日受付、2018年7月3日受理)

## 要 旨

本研究は、幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育保育要領の改定を受けて、保育雑誌に掲載される年間指導計画を対象に、年間指導計画のねらいと内容が幼稚園教育要領等で新たに示された「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」という3つの柱と、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に対応したものになっているかどうかについて2つの保育雑誌の年間指導計画を対象に分析、検討したものである。その結果、保育雑誌Aの場合は、学年の違いはあるものの、3つの柱と10の姿がある程度記述されており、とくに5歳児の年間指導計画は、10の姿の具体的内容の多くをカバーしたバランスの取れたものであった。それに対して保育雑誌Bは、記載されたねらいと内容の数も少なく「知識・技能の習得」と「思考力・判断力・表現力等」はほとんど記載されていない、10の姿については項目間の偏りが大きく、全く記載されないものもある、内容が活動として書かれているなど多くの問題点が指摘された。いずれの計画も、ねらいと内容が対応していない、実際にはその期で行われているはずのねらいや内容が記述されておらず、ねらいや内容と実際の保育が対応していない、ねらいや内容が具体性に欠けるものがある、幼児の発達に対応していないものがある、内容の継続性と発展性がないなどの問題点があり、今後の検討課題として指摘した。

キーワード：保育雑誌 年間指導計画 ねらいと内容の分析 育てるべき資質・能力

## 1. 研究の背景と目的

年間指導計画は、幼稚園、保育所における教育・保育の基本理念や教育目標を示した教育課程（保育所は全体的な計画、以下教育課程と記述する）に基づいて作成される年間を見通した指導計画である。教育は計画的に行われるべきものであり、子ども一人一人を確かに育てる教育は確かな教育課程と指導計画から生まれる。幼稚園教育要領<sup>1</sup>でも、「それぞれの

幼稚園の教育課程に基づき、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、幼児の活動に沿った柔軟な指導を行う」ことを求めている。このことから、幼稚園、保育所、認定こども園は、確かな年間指導計画が備えるべき条件を満たした教育課程と年間指導計画を作成し、計画に沿って日々の保育を展開していかなければならない。

田中、金丸、永淵（2012）<sup>2</sup>は、保育雑誌に掲載されている年間指導計画は、ねらいと内容の違いが理解されておらず、内容に活動が書かれているものが多い、ねらいと内容が対応していない、実際には行われているはずのねらいや内容が記述されておらず、ねらいや内容と実際の保育が対応していない、ねらいや内容が具体性に欠ける、幼児の発達に対応していないものがある、内容の継続性と発展性がない、領域ごとの偏りが大きいなどの問題点を指摘した。田中と石川（2018）<sup>3</sup>は、4社の保育雑誌を対象にねらいと内容を分析した結果、ねらいの多くは「表現」領域のねらい（2）「感じたことの表現」に集中し、ねらい（1）「豊かな感性」とねらい（3）「様々な表現」はほとんどないこと、内容は（4）「感じたこと様々な表現」、（5）「音楽表現」（6）「造形表現」に集中するなど特定のねらいと内容に集中すること、内容のほとんどは活動として書かれており、育みたい幼児の姿として書かれていないこと、知識・技術・思考力・判断力・表現力に関するねらいはほとんどないことを指摘した。なお、以前からあったこれらの問題点を改善するために、田中（2014）<sup>4</sup>は年間指導計画モデルを提示しているが保育雑誌の問題点はその後もほとんど改善されていない。

2018年4月、幼稚園教育要領<sup>1</sup>、保育所保育指針<sup>5</sup>、認定こども園教育保育指針<sup>6</sup>が同時改定された。この改定は、2016年12月の中央教育審議会答申<sup>7</sup>を受けて、幼稚園から高等学校まで一貫した方針のもとに改訂されるものである。この答申では、今の子どもの学力や行動、体力などの現状と子どもたちが迎えるこれまで経験したことのない予測不可能な未来社会に対応するために、教育目標や内容、方法の大きな変革を求めている。育てるべき資質・能力として、①「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」、②「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」という3つの柱を設定し、幼稚園等でもその基礎を育てるというものである。改訂された幼稚園教育要領等では、幼稚園教育や保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基本を育てることを求めている。中央教育審議会幼児教育部会（2017）<sup>8</sup>も、この趣旨を受けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として「(1) 健康な心と体」、「(2) 自立心」、「(3) 協同性」、「(4) 道徳性・規範意識の芽生え」、「(5) 社会生活との関わり」、「(6) 思考力の芽生え」、「(7) 自然との関わり・生命尊重」、「(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「(9) 言葉による伝え合い」、「(10) 豊かな感性と表現」という10項目を提示し、それぞれの項目ごとに幼児の具体的な姿を示している。この答申を受けて、幼稚園教育要領でも、上記の3つ

の資質を一体的に育み、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考慮した指導を行うことが求められている。これまでの幼稚園教育要領や保育所保育指針では、幼児期に育てる資質を「心情」、「意欲」、「態度」に限定して示しており、幼稚園教育要領や保育所保育指針に知識、技能、思考力や能力という言葉が用いられるのは初めてのことである。このことから、これから作成される教育課程や指導計画も、これまで述べた趣旨に沿って、ねらいや内容の大幅な見直しを行う必要がある。

本研究は、2018年3月に発行された保育雑誌の2018年度用年間指導計画<sup>9, 10</sup>を対象に、記載されたねらい及び内容が3つの柱と10の姿それぞれのうちどの項目に当てはまるかについて、記載された内容を分析し、指導計画の妥当性を検証する。

## 2. 方法

### 1) 分析の対象

2018年3月に発行された2種類の保育雑誌に掲載されている3、4、5歳児の年間指導計画。保育雑誌Aの計画は各年齢を別々のグループが、保育雑誌Bの計画は別々の幼稚園が作成したものである。保育雑誌Aは幼稚園保育所用、保育雑誌Bは幼稚園用と保育所用のうちの幼稚園用のみを分析の対象とした。

### 2) 分析の方法

いずれの保育雑誌もねらいと内容に分けて掲載されている。ねらいと内容それぞれについて、「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」という3つの柱と、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」という「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、該当するものに分類した。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、中央教育審議会幼児教育部会(2017)<sup>6</sup>が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のイメージとして具体的に示したもの(表1)を手がかりとして該当する項目に分類した。あてはまらないものは「その他」とした。各項目に該当した数を、期別、学年別に集計した。1つの記述に2つ以上のねらいや内容が含まれる場合は別々にカウントした。

表1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な内容 (91項目)

(中央教育審議会幼児教育部会、2016)

### 1. 健康な心と体

・充実感や満足感を持つ ・安定感や解放感を持つ ・様々な活動に目標を持って立ち向かう ・根気強く取り組む ・体を動かそうとする意欲を持つ ・進んで運動する  
 ・体の諸部位を十分に動かす ・食べ物への興味や関心を持つ ・自分の健康に対する関心を持つ ・健康な生活リズムを身につける ・準備し片付ける ・危険な場所、危険な遊び方がわかる ・災害時などの緊急時の適切、安全な行動がとれる ・衣服の着脱、食事、排泄せつの習慣が形成される ・園における生活の仕方がわかる

### 2. 自立心

・環境に主体的に関わる ・諦めずにやり遂げる ・自信を持つ ・自分でしなければならないことを自覚する ・自分のことは自分で考えてする ・自分の力でやり抜く  
 ・自分のよさや特徴に気付く

### 3. 協同性

・思いや考えなどを友達と共有する ・友達の異なる思いや考えなどに気付く ・相手の気持ちを理解する ・自分の思いの表し方を考える ・我慢や気持ちを切り替えができる  
 ・友達と分かり合える ・互いのよさが分かる ・学級皆で目的や願いを共有し志向する ・自分の役割を考えて行動する ・折り合いを付けながら問題を解決する  
 ・協力ができる

### 4. 道徳性・規範意識の芽生え

・してよいことや悪いことが分かる ・相手の立場に立って行動する ・決まりを守る必要性が分かる ・決まりを作ったり守ったりする ・他者の気持ちに共感できる ・相手の立場から自分の行動を振り返る ・思いやりの気持ちを持つ ・相手の気持ちを大切に考える ・皆で使う物が分かり愛着を持ち大事に扱う ・自他の要求に折り合いを付ける

### 5. 社会生活との関わり

・家族を大切にしようとする気持ちを持つ ・自分が役に立つ喜びを感じる ・地域に親しみを持つ ・遊びや生活に必要な情報を取り入れる ・情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断する ・公共の施設を大切に利用する ・生活に関係の深い地域の人々に親しみの気持ちを持ち良さを感じる ・地域が育んできた文化や生活などに親しみを感じる ・公共施設を大切に利用する ・国旗に接し親しみを感じる ・外国や外国の人に興味を持つ

### 6. 思考力の芽生え

・自ら判断したり考え直したりする ・自分から気付いたり、発見を楽しんだり、考えたり、振り返ったりする ・気づいたこと考えたことを別の場面で活用する ・興味を持ち、不思議に思ったことなどを探究する ・予想したり、確かめたり、振り返ったりする  
 ・自己の思いや考えなどを自ら判断しようとしてたり考え直したり新しい思いや考えを生み出す ・物の性質や仕組み等を感じ取り、物を使いこなす ・物や用具などの特性や仕組みを生かし、予想をし、工夫して使う

**7. 自然との関わり・生命尊重**

・身近な事象に関心、好奇心、探究心を持つ ・自然の大きさや不思議さなどを感じる  
 ・自然の変化などを感じ取る ・自然への愛情や畏敬の念を持つ ・身近な動植物に親し  
 みを持って接し、いたわり大切にす気持ちを持つ ・科学的な視点を持って考える  
 ・生き物への愛着を感じる ・生命の営みの不思議さや生命の尊さに気付く ・身近な動  
 植物を命あるものとしていたわり大切にす

**8. 数量・図形、文字等への関心・感覚**

・数量・図形、文字等への関心を持ち、感覚が身につく ・数量、長短、広さや速さ、図  
 形の特徴などに親しむ ・数えたり、比べたり、組み合わせたりする ・標識や文字が人  
 と人をつなぐ役割を持つことに気付く ・文字等への関心、感覚を持つ ・読んだり、書  
 いたり、使ったりする

**9. 言葉による伝え合い**

・言葉による表現を楽しむ ・相手の話の内容を注意して聞く ・相手や状況に応じて分  
 かるように話す ・話し合いができる ・文字などが果たす意味や役割、必要性が分かる  
 ・文字を読んだり、書いたりする ・絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞く  
 ・言葉の持つ音の美しさや意味の面白さなどに気付く ・新しい言葉や表現に関心を持つ

**10. 豊かな感性と表現**

・美しいものや心を動かす出来事に触れ、感じたり考えたりする ・生命の素晴らしさに  
 感動する ・感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現する ・思いのままにか  
 いたり、つくったり、演じたりなどして表現する ・表現する喜びと意欲を持つ  
 ・創造的な活動を生み出す

**3. 結果と考察**

保育雑誌の年間指導計画に示されているねらいと内容は、本年（2018年）4月から施行された幼稚園教育要領等に新たに示された「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」という3つの柱と、「健康な心と体」、「自立心」、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」という「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にどの程度対応しているのだろうか。保育雑誌Aから見てみよう。表2は、保育雑誌Aの「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわるねらいの数を3つの資質能力に分けて、表3は、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に分けて、期別・学年別に示したものである。

表2. 「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわるねらいの数（保育雑誌A）

年齢 期	3歳				計	4歳					計	5歳					計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V		
I	1	2	1	1	5	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	7

II	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	2	0	2	5	6
III	2	4	4	4	14	5	3	3	3	3	17	3	2	1	3	2	11	42
	3	6	5	5	19	5	5	3	3	4	20	3	3	3	3	4	16	55

I：知識・技術      II：思考力・判断力・表現力      III：学びに向かう力・人間性等

表3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にかかわるねらいの数（保育雑誌A）

姿	3歳				計	4歳					計	5歳					計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V		
1	1	2	2	2	7	2	2	1	1	1	7	0	1	1	0	0	2	16
2	0	0	1	1	2	2	0	0	0	2	4	1	0	0	0	1	2	8
3	0	1	0	1	2	1	1	0	1	0	3	0	2	0	2	2	6	11
4	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
5	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	2
7	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	1	1	1	3	6
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
10	0	2	1	1	4	0	1	2	1	0	4	0	0	2	0	0	2	10
計	3	6	5	5	19	5	5	3	4	4	21	3	3	5	3	5	19	59

表2からわかるように興味関心を持つ、楽しむなど「学びに向かう力・人間性等」が多く、3学年合計で55個のねらいのうち42個（76.4%）がこれに該当する。とくに、3歳児と4歳児は知識・技術や思考力・判断力・表現力に関するねらいがほとんどない。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にかかわるねらいの数を見ると（表4）、「(1) 健康な心と体」、「(2) 自立心」、「(3) 協同性」、「(10) 豊かな感性と表現」が多く、とくに「健康な心と体」に関するねらいが目立つ。これに対して、「(4) 道徳性・規範意識の芽生え」、「(5) 社会生活との関わり」、「(6) 思考力の芽生え」、「(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「(9) 言葉による伝え合い」は全体でも2個以下であり、とくに「(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」は3学年を通してねらいが掲載されていない。表4は、保育雑誌Aの、「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわる内容の数を示したものである。ねらいと同様に「学びに向かう力・人間性等」が多く、全238個のうち166個と全体の約7割に達する。ねらいと比べると「知識・技能の習得」、「思考力・判断力・表現力等」もかなり掲載されており、「思考力・判断力・表現力等」は3歳児、4歳児では少ないものの、5歳児では23個みられる。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にかかわる内容の数（表5）では、ねらいと同様に、「(1) 健康な心と体」、「(10) 豊かな感性と表現」が多いが、それ以外の8項目もかなりの数掲載されている。とくに、5歳児では、3歳児、4歳児ではあま

り掲載されていない「(6) 思考力の芽生え」、「(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」もそれぞれ13個と9個掲載され、10項目のバランスが取れたものになっている。なお、保育雑誌Aのねらいと内容はいずれも「遊びや生活の中で友だちと共通の目的と持ち、工夫しながら活動に取り組むことを楽しむ（5歳Ⅳ期のねらい）」、「自然物など様々な環境を使って遊びを楽しみ、素材の感触や物の性質などに気付いたり調べたりして探求する（5歳Ⅳ期の内容）」などと指導すべき事項の形で記述されており、ねらいと内容の定義に沿った書き方になっている。

表4. 「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわる内容の数（保育雑誌A）

資質能力	3歳				計	4歳					計	5歳					計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V		
I	2	2	3	4	11	5	3	3	2	2	15	4	4	2	1	3	14	40
II	0	0	3	1	4	0	1	0	1	3	5	3	5	3	4	8	23	32
III	12	12	10	14	48	14	16	11	11	16	68	10	13	13	12	12	50	166
	14	14	16	19	63	19	20	14	14	21	88	17	22	18	17	23	87	238

表5. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にかかわる内容の数（保育雑誌A）

姿	3歳				計	4歳					計	5歳					計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV	V		I	II	III	IV	V		
1	5	1	3	3	12	6	5	7	2	6	26	5	5	3	1	4	18	56
2	1	2	3	0	6	2	1	0	0	1	4	1	1	1	0	2	5	15
3	2	5	0	1	8	2	1	1	0	1	5	1	2	4	2	4	13	26
4	0	0	1	1	2	0	2	2	2	3	9	1	3	1	2	1	8	19
5	0	1	0	3	4	1	0	1	1	1	4	1	1	2	1	5	10	18
6	0	1	1	0	2	0	1	0	1	3	5	0	3	2	3	5	13	20
7	1	2	1	1	5	1	4	1	2	2	10	3	3	3	2	1	12	27
8	0	0	1	1	2	0	1	0	1	1	3	1	2	2	2	2	9	14
9	1	0	3	2	6	3	3	2	2	2	12	4	2	1	3	2	12	30
10	2	3	3	5	13	3	4	1	2	3	13	3	4	3	2	5	17	43
計	12	15	16	17	60	18	22	15	13	23	91	20	26	22	18	31	117	268

保育雑誌Aに掲載されているねらいと内容が、中央教育審議会幼児教育部会（2016「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な内容）に示された具体的な内容とどの程度一致しているかについて分析してみた（表5）。その結果、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な内容91項目のうち67項目は保育雑誌Aに何らかの形で登場する。このことから、保育雑誌Aの年間指導計画は、中央教育審議会幼児教育部会および改訂された幼稚園教育要領等をかなりの程度反映しているということが出来る。表6は年間指導計画に登場

しなかった24項目を示した。

表6. 掲載されているねらい・内容のうち「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（中央教育審議会幼児教育部会）」の具体的内容に含まれないもの（保育雑誌A）

<p><b>1. 健康な心と体</b> ・様々な活動に目標を持って立ち向かう ・根気強く取り組む ・自分の健康に対する関心を持つ</p> <p><b>2. 自立心</b> ・自分のよさや特徴に気付く</p> <p><b>3. 協同性</b> ・我慢や気持ちを切り替えができる ・折り合いを付けながら問題を解決する</p> <p><b>4. 道徳性・規範意識の芽生え</b> ・相手の立場に立って行動する ・相手の立場から自分の行動を振り返る ・相手の気持ちを大切に考える ・自他の要求に折り合いを付ける</p> <p><b>5. 社会生活との関わり</b> ・地域に親しみを持つ ・公共施設を大切に利用する ・外国や外国の人に興味を持つ</p> <p><b>6. 思考力の芽生え</b> ・自ら判断したり考え直したりする ・気づいたこと考えたことを別の場面で活用する ・予想したり、確かめたり、振り返ったりする ・自己の思いや考えなどを自ら判断しようとしていたり考え直したり新しい思いや考えを生み出す</p> <p><b>7. 自然との関わり・生命尊重</b> ・科学的な視点を持って考える ・生命の営みの不思議さや生命の尊さに気付く</p> <p><b>8. 数量・図形、文字等への関心・感覚</b> ・標識や文字が人と人をつなぐ役割を持つことに気付く ・読んだり、書いたり、使ったりする</p> <p><b>9. 言葉による伝え合い</b> ・話し合いができる ・言葉の持つ音の美しさや意味の面白さなどに気付く</p> <p><b>10. 豊かな感性と表現</b> ・生命の素晴らしさに感動する</p>
---

ものである。とくに5歳児の年間指導計画は、例えば「社会生活との関わり」において3歳児、4歳児の計画では全く登場しない地域の人や高齢者とのかかわりが書かれているなど、多くの内容をカバーしたかなり充実したものになっている。

次に保育雑誌Bについて見てみよう。表7は、保育雑誌Bの「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわるねらいの数を3つの資質能力に分けて、表8は、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に分けて、期別・学年別に示したものである。

表7. 「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわるねらいの数(保育雑誌B-幼稚園)

資質 能力	3歳				計	4歳				計	5歳				計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV		I	II	III	IV		
I	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	0	0	0	1	3
II	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
III	3	4	7	3	17	4	3	5	4	16	4	7	8	5	24	57
	3	4	7	3	17	4	4	6	5	19	5	7	8	5	25	61

I：知識・技術      II：思考力・判断力・表現力      III：学びに向かう力・人間性等

表8. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にかかわるねらいの数(保育雑誌B-幼稚園)

姿	3歳				計	4歳				計	5歳				計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV		I	II	III	IV		
1	3	0	2	1	6	1	1	2	1	5	1	0	1	1	3	14
2	0	1	2	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	1	1	5
3	0	1	2	1	4	1	1	2	2	6	1	2	4	2	9	19
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3	3
5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	1	0	4	5
6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
7	0	2	1	1	4	1	1	1	1	4	0	3	0	0	3	11
8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
9	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2
10	0	0	1	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	1	3
計	3	4	9	3	19	4	4	4	6	18	5	7	9	5	26	63

表7からわかるように、ねらいはそのほとんど(61個中57個)は興味関心を持つ、楽しむなど「学びに向かう力・人間性等」に関するものであり、3歳児では[知識・技術]や[思考力・判断力・表現力]に関わるねらいは全く掲載されていない。全体で見ても、この2つにかかわるねらいは4個にとどまっている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にかかわるねらいの数を見ると(表7)、「(1)健康な心と体」、「(3)協同性」、「(7)自然との関わり・生命尊重」の3つの姿に偏っており、「(6)思考力の芽生え」、「(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」は3学年全体でもそれぞれ1つずつの掲載にとどまっている。

表9は「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわる内容の数を示したものである。「友だちとダンスやかけっこをする(3歳Ⅲ期)」、「昆虫などの飼育や観察をする(4歳Ⅱ期)」など単なる活動として掲載されているものは「その他」として分類した。「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわる内容は、掲載総数が76個と、保育雑誌Aの三分の一以下である。ねらいと同様に[知識・技術]や[思考力・判断力・表現力]は非常に少なく、その多くが「学びに向かう力・人間性等」であることがわかる。「幼児期の終わりまでに育

「育ってほしい姿」に関わる内容の数も偏りが大きく、「(6) 思考力の芽生え」、「(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「(4) 道徳性・規範意識の芽生え」に関する内容はそれぞれ0個、1個、2個に過ぎない(表10)。さらに、保育雑誌Bでは、内容の多くが活動として書かれており、内容の意味が理解されているかどうか疑わしい。

表9. 「幼児教育において育みたい資質・能力」にかかわる内容の数(保育雑誌B-幼稚園)

資質能力	3歳				計	4歳				計	5歳				計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV		I	II	III	IV		
I	0	0	1	0	1	1	1	0	0	2	1	0	0	0	1	4
II	0	0	1	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	1	1	4
III	5	4	2	0	11	0	4	2	3	9	1	4	5	1	11	31
その他	3	2	9	3	17	4	1	2	2	9	3	2	3	2	10	38
	8	6	13	3	30	5	6	6	5	22	5	6	8	4	23	76

I：知識・技術      II：思考力・判断力・表現力      III：学びに向かう力・人間性等

表10. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」にかかわる内容の数(保育雑誌B-幼稚園)

姿	3歳				計	4歳				計	5歳				計	総計
	I	II	III	IV		I	II	III	IV		I	II	III	IV		
1	2	0	3	0	5	1	1	1	0	3	0	1	0	0	1	9
2	2	1	1	2	6	2	0	1	0	3	0	2	0	0	2	11
3	3	3	2	0	8	0	1	2	2	5	2	1	4	2	9	22
4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	2	2
5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	0	2	4	5
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	2	2	0	1	5	1	2	1	0	4	0	1	1	0	2	11
8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
9	0	0	2	0	2	1	0	0	0	1	1	1	3	1	6	9
10	1	0	3	0	4	0	2	1	2	5	0	0	0	0	0	9
計	10	6	11	3	30	5	6	7	6	24	5	7	9	5	26	80

表11は、保育雑誌Bに掲載されているねらいと内容が、中央教育審議会幼児教育部会(2016「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な内容)に示された具体的内容との程度一致しているかについて分析したものである(表11)。その結果、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な内容91項目のうち34項目は保育雑誌Bに何らかの形で登場する。すなわち57項目については3つの学年を通して記載がない。これらの結果から、保育雑誌Bの年間指導計画は、ねらいや内容の偏りが大きく幼児期に育てておくべき重要事項を踏まえたものになっていない、幼稚園教育要領に示された育てるべき3つの資質・能力

のうち「知識・技能」の習得」と「思考力・判断力・表現力等」の育成、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち「(6) 思考力の芽生え」、「(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「(10) 豊かな感性と表現」についてはほとんど掲載されておらず、改訂された幼稚園教育要領等が反映されていないことから、大幅な改善が求められる。

表11. 掲載されているねらい・内容のうち「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（中央教育審議会幼児教育部会）」の具体的内容に含まれないもの（保育雑誌B）

### 1. 健康な心と体

・様々な活動に目標を持って立ち向かう ・根気強く取り組む ・体の諸部位を十分に動かす ・自分の健康に対する関心を持つ ・健康な生活リズムを身につける ・準備し片付ける ・危険な場所、危険な遊び方がわかる ・災害時などの緊急時の適切、安全な行動がとれる

### 2. 自立心

・自分のよさや特徴に気付く

### 3. 協同性

・思いや考えなどを友達と共有する ・自分の思いの表し方を考える ・我慢や気持ちを切り替えができる ・友達と分かり合える

### 4. 道徳性・規範意識の芽生え

・してよいことや悪いことが分かる ・決まりを守る必要性が分かる ・決まりを作ったり守ったりする ・他者の気持ちに共感できる ・相手の立場から自分の行動を振り返る ・相手の気持ちを大切に考える ・皆で使う物が分かり愛着を持ち大事に扱う ・自他の要求に折り合いを付ける

### 5. 社会生活との関わり

・家族を大切にしようとする気持ちを持つ ・自分が役に立つ喜びを感じる ・地域に親しみを持つ ・遊びや生活に必要な情報を取り入れる ・情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断する ・公共の施設を大切に利用する ・生活に関係の深い地域の人々に親しみの気持ちを持ち良さを感じる ・公共施設を大切に利用する ・国旗に接し親しみを感じる ・外国や外国の人に興味を持つ

### 6. 思考力の芽生え

・気づいたこと考えたことを別の場面で活用する ・興味を持ち、不思議に思ったことなどを探究する ・予想したり、確かめたり、振り返ったりする ・自己の思いや考えなどを自ら判断しようとしたり考え直したり新しい思いや考えを生み出す ・物の性質や仕組み等を感じ取り、物を使いこなす ・物や用具などの特性や仕組みを生し、予想をし、工夫して使う

### 7. 自然との関わり・生命尊重

・自然の大きさや不思議さなどを感じる ・自然への愛情や畏敬の念を持つ ・科学的な視点を持って考える ・生き物への愛着を感じる ・生命の営みの不思議さや生命の尊さに気付く ・身近な動植物を命あるものとしていたわり大切にす

## 8. 数量・図形、文字等への関心・感覚

・数量・図形、文字等への関心を持ち、感覚が身につく ・数量、長さ、広さや速さ、図形の特徴などに親しむ ・数えたり、比べたり、組み合わせたりする ・標識や文字が人と人をつなぐ役割を持つことに気付く ・文字等への関心、感覚を持つ ・読んだり、書いたり、使ったりする

## 9. 言葉による伝え合い

・相手の話の内容を注意して聞く ・相手や状況に応じて分かるように話す ・文字などが果たす意味や役割、必要性が分かる ・文字を読んだり、書いたりする ・新しい言葉や表現に関心を持つ

## 10. 豊かな感性と表現

・美しいものや心を動かす出来事に触れ、感じたり考えたりする ・生命の素晴らしさに感動する ・創造的な活動を生み出す

さらに、保育雑誌Aも、田中敏明、金丸智美、永渕美香子（2012）で指摘した、ねらいと内容が対応しておらず、内容だけが書かれたものが多い、実際にはその期で行われているはずのねらいや内容が記述されておらず、ねらいや内容と実際の保育が対応していない、ねらいや内容が具体性に欠けるものがある、ある学年・期で登場するねらいがその期にふさわしいねらいではなくどの期にも当てはまるものが多い、内容の継続性と発展性がないなどの問題点がある。これは保育雑誌Bにも当てはまるものであり、これからの見直しと改善によって子ども一人一人を確かに育てる教育のための年間指導計画の作成が望まれる。

## 引用文献

1. 文部科学省 2017 幼稚園教育要領
2. 田中敏明、金丸智美、永渕美香子 2012 保育雑誌に掲載される年間指導計画モデルの問題点Ⅱ—問題点を改善したモデル提示、福岡教育大学教育実践センター教育実践研究、第20号、P155-161
3. 田中敏明、石川ますみ 2018 保育雑誌に掲載される年間指導計画の現状と課題—表現領域を中心に—、九州女子大学紀要第54巻2号、P129-140
4. 田中敏明 2014 幼稚園・保育所指導計画作成と実践のためのねらいと内容集、北大路書房
5. 厚生労働省 2017 保育所保育指針
6. 内閣府、文部科学省、厚生労働省 2017 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
7. 中央教育審議会 2016 次期学習指導要領に向けた答申概要
8. 中央教育審議会幼児教育部会 2016 幼児教育部会における審議の取りまとめについて（報告）
9. 月間保育とカリキュラム編集委員（編） 2018 指導計画の基本的な考え方と年の計画

月間保育とカリキュラム2018年4月号特別付録、ひかりのくに

10. 港北幼稚園、青木幼稚園、認定こども園中野幼稚園・中野どんぐり保育園 2018 保育園幼稚園年間指導計画、Piccolo、61-81、Gakken

## **Analysis of annual guidance plan published in childcare magazines**

### **- From a viewpoint of natures, abilities and figures which bring up by the infant end -**

Toshiaki TANAKA<sup>\*1</sup>, Kazuo BYOGA<sup>\*1</sup>, Yuko IDE<sup>\*1</sup>, Hujio TAKAGI<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>Department of Childhood Care and Education, Kyushu Woman's Junior College

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

<sup>\*2</sup>Department of Health Sport and Communication, Nishinohon Junior College

1-3-1 Hukuhama, Chuou-ku, Fukuoka-Shi, 810-0066, Japan

#### Abstract

The guidance of kindergarten teaching, nursery school childcare and authorized child garden education were revised this year. Education target of the acquisition of knowledge and the skill, intellectual power, judgement, power of expression, figures which bring up by the infant end was shown in that guidance. This research aims mainly on the analysis of the annual guidance plan published in childcare magazines. And on the discovering whether aims and contents of the annual instruction plan are reflected some items shown in the newly revised the guidance of kindergarten teaching. As a result of analysis, it became clear that items shown in the newly revised guidance of kindergarten teaching were written to some extent in annual guidance plan of magazine A. And in particular, annual guidance for five years old of magazine A covered many contents. On the other hand, there are many problems in magazine B. It is the following problems. At first in magazine B contents are written as a·activity. There is little number of the aim and the contents, furthermore the contents of acquisition of knowledge and the skill, intellectual power, judgement, power of expression are not published at all. There is the common problem with magazine A and magazine B. It is the following problems. An aim and contents do not cope. There is the thing which an aim and contents of are chipped off in concreteness and which does not cope with the development of the infant. There are not continuity and the expandability of contents. These are indicated as a examination subject.